

今回のテーマは「“新しい”町内会」です。

札幌市には約2,200の町内会・自治会があります。その一つひとつの町内会では、わがまちをより暮らしやすくするために、いろいろな活動に取り組んでいます。

ただ、その活動内容を実際に知る機会は少なく、「他の町内会はこの

問題にどう対処しているのだろう?」と思う方も多いと思います。このため町内会に実際に訪問し、お話をうかがった「リアル」を皆さまにお伝えしようと作成したのがこの「SAPPOROマチトモ通信」です。

今回は「“新しい”町内会」をテ

マとして、東区「東かりきひかりの町内会」、北区「一般社団法人季実の里団地管理組合」のお話をうかがってきました。

東かりきひかりの町内会は、子育て世代が中心となって立ち上げた設立2年目の“新しい”町内会です。

季実の里団地の町内会は17年程前から活動を続けていましたが、これからの町内会がどうあるべきか住民の皆さんと話し合い、“新しく”立ち

上げた2つの団体に機能を分けることになりました。

何かを新しく始めるのは大変であったり、ときには反対にであったりするなど簡単なことではありません。

そのような中で、この2つの町内会の“新たな”活動への試行錯誤は、日々、様々な課題や悩みに取り組む皆さんに勇気を与えてくれるものかもしれません。

インタビュー①

東かりきひかりの町内会 会長 北川 雄太さん 会計責任者 川北 光晴さん

子育て世代がごみステーションをきっかけに一から町内会を立ち上げました。

私たちの「ごみステーション」はどこ?

東かりきひかりの町内会は平成28年に設立しました。きっかけは「ごみステーション」です。

平成25～26年の入居当初はまだ家が少なく、空き地が多く、ご近所付き合いも少ない状況でした。

ふと気づくと、我が家のごみステーションはどこなのかはっきりせず、掃除当番も無いため、次第にごみステーションが荒れてきました。

「これはまずい」と思い、連合町内会の役員さんに相談したところ「地域での話し合いが必要では」と助言してくれました。

「支え合い」の必要性を心の中で感じていました

わたしたちは子どもを持ち、パパ会で活動し始めたことで「子どもを支えるつながりは大事だ」と実感しました。また、大災害の発生や安全安心の不安要素が増える中「地域の

支え合い」の大切さを感じるようにもなりました。

同じ思いの方も多く、話し合いの場は「町内会設立準備会」となりましたが、具体的なことがなかなか決定しませんでした。

そこで意を決し(川北さんが)準備会代表に就任。準備委員の皆さんと役割を分担し、全戸訪問・イベント情報等の全戸配布・アンケートの実施などを通じて意見交換を進めていきました。

準備委員や現在の役員の大半が仕事をしており、時間の都合が合わないなど大変なこともありました。 「自分たちでつくる愛着あるまちづくり」をモットーに、無事町内会を立ち上げることができ、戸建て居住者の9割5分が加入してくれました。

ごみステーションは町内会設立前に各戸1500円の負担で設置、設立後は8班で管理し、掃除当番制も確立しました。

子ども・子育てに力を入れて…自慢のイベントは「ハロスマス」

町内会の組織は総務隊・環境美化隊・安心安全隊・会計隊・イベント隊と会長・副会長・監事です。

「子ども」が多く暮らす地域であることから、イベント隊(3名)を中心として、子ども・子育てに関わる取組に力を入れています。自慢はハロウィン+クリスマスの「ハロスマス」。年々参加者が増え、約150人が参加します。



●ハロスマス

衣装やゲーム、ダンスに輪が年々広がっていくプレゼント交換。盆と正月が一週にきた!のような盛りだくさんのイベントです。



●ラジオ体操

夏休みは毎日ラジオ体操を実施。特別ゲストの東区マスコットキャラクター「タッピー」と一緒に。

ハロスマスは衣装だけでなく、ダンス(今年はU.S.Aでした)、オリジナルのゲームを小道具からつくるなど、イベント業者のようなクオリティだと自負しています。

やりたいと思ったら気楽にできる環境づくりを目指します

今年から役員には手当を支払っています。資料の印刷費と交通費を基に算出しました。また役員・班長は町内会費を割引します。「負担」と感じる要素を少しでも減らしていきたいと考えました。

今後取り組んでいきたいことはいろいろあります。

まずは女性の役員を増やすこと。子育て中のママがカフェに集まるお茶会を開催するなど女性のニーズと一緒に実現していきたいです。

ただ、企画を一度運営し始めると、その後ずっと役割に縛られることへの不安や負担を感じる人のほうが多いと思います。

やりたいことや参加してみたい企画があると思ったら、責任や役割を感じ過ぎず、気楽に試してみたり、意

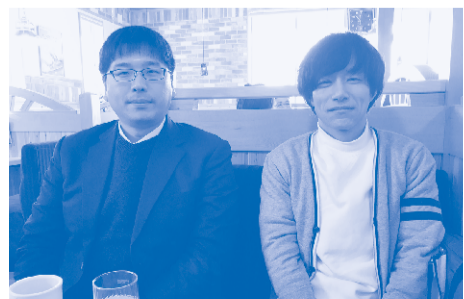
見を率直に言い合える環境や仕組みをつくり、関わる人たちがどんどん代わっていき、新しいアイデアで、より楽しいまちになっていくと思っています。

また、子どもたちのために、学校と連携し、近所のカフェを使って学習支援を行いたい。実は私たちは集会所を持っていません。町内会の会議も地域のマクドナルドや児童会館「かりたま」で開催しています。集会所があればと思うこともありますが、地域資源を活かせればそれが一番だと考えています。

このまちで育った子どもたちは、いずれ大人になり、出ていくかもしれません。しかし、子どもたちが大人になった時、よき思い出を持てる、そしてまたこのまちに帰ってきたい、そのような住み良いまちを目指して活動に取り組んでいます。

東かりきひかりの町内会

- 平成8年～平成29年にかけて分譲された東区にある新しい住宅地。コミュニティが存在しない中、若い子育て世代の住民が協力し合って町内会を一から立ち上げた。居住者は子育て世帯が多く、戸建て住宅が大半を占めている。
- 加入世帯数:222世帯
- 町内会費:月500円(世帯)年2回払い。一括払いの場合は1か月割引。
- 役員:17名



会長の北川さん(写真左)と会計責任者の川北さん。「地域資源」の喫茶店でお話をうかがいました。

管理組合と任意団体の両輪で、まちづくりをすすめています。

環境整備を少人数で確実にを行うために

平成12年の団地供用開始時に季実の里団地自治会を設立。当初は居住者の意欲も高く、活動も活発でした。

しかし、団地住民の高齢化が進み、自治会の担い手が減ったことで、当番制の環境整備に支障が出てきました。

ごみステーションや集合玄関の除雪は暮らしに必須のものなので、少人数で環境を整備できる仕組みが必要だと考えました。

そこで居住者の皆さんと相談し、自治会の機能を見直し、環境整備・管理を行う(一社)季実の里団地管理組合と親睦・交流事業を行う任意団体きずなの2つに分け、両輪でまちづくりをすすめていくことになりました。

管理組合は「管理人(事務局常駐職員)」を配置。月3万円の手当を支払い、責任を持って管理を行います。現在は私と他1名が事務局常駐職員です。ごみステーション清掃、除雪、会計一切を行います。



理事長磯野さん。制服の作業着姿で愛用のタブレットを手にしながら、熱いトークをうかがっていました。

任意団体「きずな」は交流・親睦の企画を担っています

きずなは親睦や交流を「やりたい人ができることを楽しんで」自由に参加する集まりです。映画会や老人クラブ、きずなキッズや季節の行事などを行っています。行事によって年会費以外に参加費をいただく場合もあります。

最近始めた企画は「ゆるヨガ教室」。きずなを手伝ってくれている人から、ヨガインストラクターを目指す若い世代の女性がいて聞き、早速話を持ちかけたら喜んで引き受けてくれました。

担い手も参加する人も楽しまないと継続しません。これからもできる範囲で楽しみながら親睦・交流事業を行っていきたくです。

「自習クラブ」で子どもや保護者と新たな縁ができました

平日は小中学生のための自習クラブを学年ごとに週1回開催しています。

保護者の皆さんとはLINEグループで出欠連絡や子どもの様子を伝えるなどのやりとりをしています。そのうちにきずなのイベント情報を周知したり、人手を集めてくれたりと新たな縁ができました。

事務所は寺子屋?! 高齢者のLINE習得の場にも

私も70代で立派な高齢者ですが、



●ゆるヨガ

老若男女、世代を超えてゆるーくヨガを楽しんでいます。

●きずな食堂

年4回(3月・6月・9月・12月)開催。子どもも大人も利用できるまちの食堂です。

て」と連絡したことで、速やかにお知らせすることができました。

デジタル製品が大好き。常々「高齢者こそタブレットやメール、ネットが必要!」と思っていました。使いこなすことができれば、自宅に居ながら買い物やコミュニケーションを楽しめます。このため、事務所でお茶を飲みながら1対1でゆっくりと使い方をお伝えしています。

今ではインターネット通販で買い物を楽しむ方が増え、団地内高齢者の約3割がLINEで安否確認を兼ねた挨拶を事務局と交わっています。

情報は各戸配布・掲示板・LINE。回覧板は使っていません

共同住宅ならではの部分もありますが、お知らせは全て全戸配布し、掲示板に貼り出します。さらに会員LINEグループや個別にLINEで連絡をとり合う居住者さんにもお知らせを流します。

LINEは胆振東部地震でも役立ちました。震災の影響で水道水が濁ってしまったのですが、事前にLINEで情報を流し「向こう3軒に必ず伝え

今後取り組んでいきたいこと

今は生活スタイルや家庭の形が多様です。大きな人数を集めて何かを始めることが難しいのかもしれない。

これからもまずは小さな規模で、できることから、確実に取り組んでいきたいと考えています。

北区屯田にあるファミリータイプの道営住宅。5年前に自治会を解散。環境整備を担う(一社)季実の里団地管理組合と親睦・交流企画を行う任意団体きずなを立ち上げた。居住者は20~30代と70~80代が多く、40~50代が少ない。高齢者は3割くらいを占め、若い共働き世帯が多い。

(一社)季実の里団地管理組合
●管理費:月3千円(世帯)
*共益費と同様のもの
●会員:約100世帯 ●役員:5名

任意団体「きずな」
●会費:年間1千円(世帯)
●会員:約70世帯 ●役員:5名

info.

企業の認定制度がはじまります。

札幌市では、平成31年度から企業の地域に根ざした活動がより促進されるように、地域活動に積極的に取り組む企業を認定*する制度をはじめます。詳細が決まりましたら、札幌市ホームページ等でお知らせしますので、ぜひご確認ください。

*認定には一定程度の活動基準があります。

info.

“Facebookページ開設町内会”意見交換会を開催しました。

札幌市の中でFacebook(以下FB)ページを開設している町内会は23あります。

町内会の公式FBページを開設した町内会の方々による意見交換会を平成30年度に2回開催しました。

様々なメリットを感じている一方で、問題や課題も挙げられていました。

FBなどSNSの利用者は年々増加しています。町内会の担い手や参加者の固定化などの課題を解決するため、こういった”新しい”手法による活動の広報についても検討してみたいかがでしょうか。



素敵な

町内会・自治会の取組をお伝えする情報紙

SAPPORO マチトモ通信



このロゴマークは地域の安心と笑顔を支えている町内会をイメージして、札幌市が制作しました。



さっぽろ市
02-002-19-378
31-2-318